（別紙４－２）

目標達成計画

事 業 所 名　：グループホームポランの家
作　成　日　：令和 ３ 年 11 月 29 日
市町村受理日：令和 ３ 年 11 月 29 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	23	思いや以降の把握⇒ご本人の生活歴をとおし人格的全体性を把握し、認知症という疾病の中にあっても主体的な生活ができることを目指しているが、係る認識について職員においては脆弱さが認められる	認知症の方たちにとって、「意思」とは何かを理解できるようになる	係りの中に、「待つ」という姿勢を確立していくこと。その中で顔の表情などを観察しながら「気持ち」を読み取る努力をしていくこと。これらの事をとおし「意思」とは何かを理解できるようにしたい。	令和4年6月30日
2	7	虐待防止の徹底⇒確かに丁寧な言葉で接遇はしているが、本来的な認知症の方とのコミュニケーションにおいて、何を求めているのか、疑問が残る場合がある。会話が目的的すぎる。	日常生活において、より多く楽しい会話があるような場作りを目指す	認知症とは何か、自分は認知症を患う利用者の方の介護者なのだ･･･という認識を日ごろから顧みるような精神性を維持できるよう「グループ力」を高めていく。	令和4年6月30日
3	6	身体拘束をしないケアの実践⇒確かに概念的には拘束ではありません。ゆったりとリビングで一人時間を過ごしている。あくまでも「風景」としてはである。こういう時間も必要であるかもしれませんが、認識が薄れていくと、介護放棄になる危険性があります。	入居者の方が「そこに一人で居る」という認識ができ、その上で、思いを察する職員像を望みたい	自己覚知が大変必要です。これも上記と同じように「グループ力」をつけて意図的ケアができるように日ごろから実践をしていく。	令和4年6月30日
4	1	理念の共有と実践⇒介護の理念性には職員のそれぞれ違った価値観が影響しています。利用者は「他者」であるという認識が理念の共有ということを可能にするかしないかのポイントになりますが、時として他者＝個人が利用者一般になる傾向にあります。	車いすの生活でも、食事介助を要する方も、豊かな個性を持つ「生活者」であるという認識を強く持てるようになること	生活者とは、社会の中にあってどのような社会的側面を持つ個人であるのか、このことによって社会的欠乏ということも理解できるため、自分を透しながら他者を観る機会を意識的に持つようにする	令和4年6月30日
5	13	職員を育てる取り組み⇒職員の一人一人の生活歴も違い、価値観も違う中で、認知症の方の「介護」をする生活者＝職員が成長していくのは時間がかかります。そもそも職員として成長することとは何かが、なかなかわかりません。	介護職員として知識、技術の習得ばかりでなく、認知症の方に、自分が成長するとは何を意味するのかを自分の中で問答できる職員になってほしい	スーパービジョン機能を生かし、困難な場面で解決に導く実践性を示したような場合は、スーパーバイザーはこのことが生活困難者一つ豊かにしたんだ、というような評価を十分にして、さらに前向きに努力できるよう後押しをしていく。	令和4年6月30日

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加してください。